

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



低温遭遇予測日の地図化



- ハウス栽培果樹では樹体に**一定時間以上の低温**を当てた後、加温を開始します。
- このため7.2℃以下の**低温遭遇積算時間**(以下、低温積算)を測定して加温の可否を判断しますが、現地栽培園では気象観測が不十分な場合が多く、簡単にはいきません。
- そこで、果樹試験場では国関連機関の**農研機構**が持つ**メッシュ農業気象データ**を利用して日最高気温と日最低気温から**低温積算を推定**する方法を検討しました。
- その結果、推定値と気象観測による実測値との間にはほとんど変わりなく、**信頼性**は検証されています。
- 県内現地園において低温が満たされる時期を予測し、その結果を**地図上に表示**できるメリットがあります(図)。

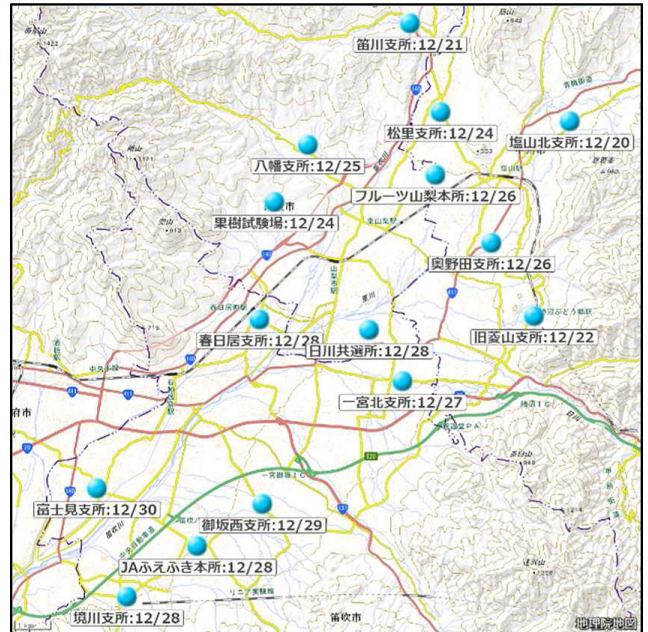


図. 低温要求量 600 時間推定到達日
(2021-2022 年冬季、果試 R4 成果情報)



ざいけい 農業の剤型



- 農薬は、取扱いやすさを高め、防除効果を十分に発揮するように、有効成分に様々な増量剤や補助剤を加えます。これを**製剤**と呼び、各種製剤の形態を**剤型**といいます(写真)。
- 主な剤型の特徴は以下のとおりです。



写真. 農業における主な剤型

水和剤: 水になじむ粉末状製剤で、水に懸濁(水に溶けない個体粒子が水に分散した状態)させて用いる最も一般的な製剤。**顆粒水溶剤**: 粉末を顆粒状に加工して、取り扱いやすさと安全性を向上したもの。**フロアブル剤**: 分散剤等を加えて水で懸濁させヨーグルト状に加工した製剤。高倍率で希釈後使用するので果実が汚染し難く、薬害が少ない。**液剤**: 有機溶剤を加えた製剤であるため、果実表面の果粉が溶脱しやすく、果樹での使用は限られる。